チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 118 2021 年 2 月 19 日発行

チェルノブイリ原発事故から 35 年 福島原発事故から 10 年

豊田直巳さん 講演会

日時:4月24日(土)13:00~15:00

会場: Zoomによるオンライン開催)

昨年4月に計画していた豊田直巳さん講演会は、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となっていました。原発事故の報道は減っても、放射能汚染は次の世代に、その次の世代に、さらに次の世代にまで続きます。多くの方に原発事故後の現状を知っていただき、コロナ禍でさらに困難な状況にあるチェルノブイリと福島の子どもたちへの支援を呼び掛けるために、オンラインによる講演会を開催します。詳細は同封のチラシをご覧ください。



ベラルーシ「ナデジダ」で保養中の子どもたち 2021年1月







クリスマスプレゼントを 受け取った子どもたち 2020 年 12 月

~~~ 本号の目次 ~~~

p.2~3 2020 年 12 月支援報告/2021 年支援計画

p.4~8 子どもたちの状況

p.9 チェルノブイリ子ども基金奥羽

p.10~11 ベラルーシ「ナデジダ」の状況

p.12 黒部ドクターのお話

p.13 チェルノブイリの歌声

p.14 2020 年度決算報告書

p.15 募金/救援状况

p.16 事務局から

2020年 12 月支援報告/2021 年支援計画

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響をいろいろな面で受けましたが、みなさまのご支援のおかげでチェルノブイリの子どもたちへの支援活動を行うことができました(決算報告は 14 頁をご覧ください)。ご支援に対しまして心よりお礼を申し上げます。2020 年 12 月の支援の報告と、2021 年の支援計画をお知らせします。本年もご支援いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

★2020年12月の支援報告

<ベラルーシ>

慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」 (ゴメリ市)

毎年12月に会員の子どもたちのために開いているクリスマス会が、新型コロナウイルス感染対策のため中止となってしまいました。11月の準備段階から、「新型コロナ感染拡大による経済状況の悪化により地元企業などからの寄付集めが例年以上に厳しい」と、代表のワレンチーナさんから連絡がありました。そのため子どもたちへのプレゼント(果物・お菓子・食料品)購入費として1,000ドルを支援しました。

毎年この催しは、会員の子どもと親たちが一同に集まり、親やボランティアの学生たちがクリスマスの扮装をしてプレゼントを手渡し、子どもたちも歌やダンスを披露するなど、おやつも食べたりしながら、会員同士が楽しく交流する恒例行事でした。しかし今回は会の開催ができなかったため、用意したプレゼントは各家庭の子どもたちへ配られました。その後ワレンチーナさんから、プレゼントを受け取った子どもたちの写真が送られてきました。クリスマス会は開けませんでしたが、子どもたちの笑顔にほっとしました。



子ども健康回復センター「ナデジダ(希望)」 (ミンスク州ビレイカ地区)

チェルノブイリ事故による汚染地区の子 どもたちが、年間を通して学校のクラス単 位で保養に訪れる施設。新型コロナウイル ス感染拡大の影響により一時施設を閉鎖し ていました。2020年6月半ばより子どもの 受け入れを再開しましたが、感染対策のア ルコール消毒剤、体温計などの購入、受け 入れ人数の縮小などにより厳しい運営状況 であるとの連絡が届きました。そのため、 緊急支援として10,000ドルを寄付しました。 その後国内の子ども保養施設では、感染リ スクを避けるため食堂の各テーブルの間隔 を 1.5 メートル空けるという新たな規則が できました。併設の夏のキャンプ施設が 6 月からオープンするため、通常より大人数 の子どもが食堂を利用することになります。 その時期までに食堂の拡張工事が必要となりました。そのため緊急支援はこの費用に使われることになりました。ナデジダの状況の詳細は10~11頁に紹介します。

<ウクライナ>

「内分泌代謝研究所」(キエフ市)

年間約1400人の患者が甲状腺の治療に訪れる医療施設。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一時重症患者以外の受け入れを中断していました。2020年に支援した甲状腺手術後の患者のためのホルモン剤1567箱のうち、2020年12月2日時点で509人の患者が受け取り、残り174箱という報告を受けました。そのため今回も、甲状腺ホルモン剤とカルシウム剤の購入費用として20,000ドルを支援しました。





 $* \sim * \sim *$

★2021 年の支援計画

<ベラルーシ>

- ●子ども健康回復センター「希望」
- ①「腫瘍病の子どものための保養」
- ②「甲状腺がんの手術を受けた親とその子どものための保養」
- ●慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」:この団体に所属する里子の支援。「希望」で実施する病気の子どものための保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。
- ●慈善団体「チェルノブイリのサイン」: この団体に所属していた里子の支援(団体 自体はすでに解散している)。

<ウクライナ>

- ●慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」: この団体に所属する里子の支援。 スタッフ給料と事務所維持費の一部。
- ●「汚染地域に住む病気の子どものための 保養」: ウクライナ国内の子どもサナトリウ ムで実施。

<写真上> 内分泌研究所に納品された甲状腺ホルモン剤とカルシウム剤。カルシウム剤は術後合併症(甲状腺機能亢進症)のある患者に必要。

撮影: 2021年1月27日

<写真下・左> 甲状腺ホルモン剤を受け取る V・レーシャ。1976 年生まれ。チェルノブイリ事故当時の年齢は 10 歳。2017 年、転移を伴う甲状腺乳頭がんのため手術を受けた。その後、放射性ヨード治療を受けた。事故当時も現在もキエフ市で暮らしている。

薬の箱には子ども基金のシールが貼られている。

撮影: 2021年1月28日

チェルノブイリ事故から35年を前に 子どもたちの状況

子ども基金は、ベラルーシの慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」と、ウクライナの慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」を通して、病気の子どもたちのための保養プロジェクトや医薬品支援を行っています。また、日本の「里親」に一定期間一人の病気の子どもを支援していただく「里親制度」も行っています。これまでに326人が「里子」となり、現在は53人の子どもが支援を受けています。里親の方の事情で支援が継続困難になった場合や、新たな里子候補の里親が決まるまでの間には、基金による「緊急支援」も行っています。昨年末、現地から送られてきた子どもたちの近況報告では、新型コロナウイルスの影響も伝えられています。

M・クリスチーナ (2003年生まれ) ベラルーシ ゴメリ市

染色体の病気、ターナー症候群。常に成長ホルモン剤を服用している。障がい者認定を受けている。心臓、甲状腺にも問題がある。 胆嚢摘出術を受けた。リンパ浮腫による足のむくみに苦しんでいる。高額な治療費がかかるが、完治は難しいといわれている。右耳の慢性化膿性耳炎。右側の上顎洞のう胞。軽度の難聴。現在は美容師になるための専門コースに通っている。



子ども基金の支援で購入された薬 を受け取るクリスチーナ。

母親(1985年生まれ)は10歳で甲状腺ガンの手術を受け、障がい者認定を受けている。父親(1980年生まれ)は坐骨神経の虚血性神経障害を合併した右大腿後面の皮膚領域の壊死と診断された。手術後、抹消神経が影響を受け、歩行が困難になった。第3級障がい者に認定された。以前は運転手の仕事をしていたが、現在は無職。美容師をしている母親の収入と、それぞれの障がい者年金で暮らしている。家族全員が新型コロナウイルスに感染した。

母親は10代のころ、子ども基金の「甲状腺 手術後の子どものための保養プロジェクト」 に参加した。また、2011年と2014年、子ども基 金の招待で「チェルノブイリ事故被害者家族 の保養プロジェクト」に家族3人で参加した。

B・ナザール (2008年生まれ) ベラルーシ ゴメリ州カリンコヴィチ市

後縦隔の神経芽細胞腫。チェルノブイリ事 故が原因による障がい者に認定されている。 泌尿器疾患。下半身不随のため、車椅子で生活 をしている。常にさまざまな薬が必要。現在6 年生。1年生から自宅学習を続けている。卓上 ゲーム、読書、レゴ遊びが好き。 友だちが家に 来て一緒に遊ぶことを、いつもとても楽しみ にしている。

2020 年 8 月~9 月、ドイツの専門クリニックで背骨再生のための困難な手術を受け、リハビリを行った。ドイツの慈善団体が、新しい車椅子と、背筋を伸ばして座ることのできる整形用の椅子を購入した。帰宅後も自宅で特別なリハビリを続けている。来年、母と共に再度ドイツに検査に行く予定。

母親(1976年生まれ)は学校の教師。父親(1976年生まれ)は、息子の介護手当を受けながら、企業で半日勤務している。姉(1999年生まれ)は大学院生。

母が仕事に出ている間、父や近所に住む親類たちが交代でナザールの世話をしている。 家族は畑で野菜や果物を栽培。夏の間に収穫しものを瓶詰にして冬用に貯えている。



子ども基金の支援で購入されたクリスマスプレゼントを受け取った。



G・ニーナ (1992年生まれ) ベラルーシ ゴメリ州レチッツァ地区

脳腫瘍。2005年腫瘍摘出手術を受けた。チェルノブイリ事故が原因の障がい者に認定されている。運動機能障がいのため常に介助が必要。知的発達の遅れがあり、読み書きができない。聴覚にも問題がある。頭痛がひどく鎮痛剤を服用している。学校卒業後、自宅で過ごしている。趣味はビーズ細工。

母親タチヤナ (1972 年生まれ) は小学校の 警備員の仕事をしている。甲状腺がんの手術 を受けた。手術後、甲状腺ホルモン剤を服用し ている。子宮がんのため照射治療を受けた。聴 力が悪化し補聴器が必要となった。2020 年 7 月、父親が卒中により亡くなった。妹 (1997 年 生まれ) は膝関節の腫瘍。手術を受けると後遺 症が残る可能性があると言われている。この 病気のため就職することができない。弟 (2001 年生まれ) は、建設カレッジを卒業。心臓病と、 背骨に問題があり、経過観察中。時々地元でア ルバイトをしている。家族全員が病気を抱え ていて、母親一人の収入で生活している。

T・ボグダン(2011年生まれ) ベラルーシ ゴメリ市

脊髄管内生成を伴う右腹膜腔の神経芽細胞 腫。骨盤帯器官の障害、下肢不全麻痺。障がい 者に認定されている。昨年4月、肺炎と気管支 炎にかかり入院した。その後も半年間、咳が 続いた。コロナウイルス感染テストは陰性だ った。6月、整形用の靴を履いていた結果、足 の裏の皮膚が固くなる症状が現れ、潰瘍にな った。歩行が困難になり、車椅子で過ごすこ とになった。足の治療は今も続いている。9月、 頭部にできたほくろを切除する手術を全身麻 酔で受けた。ほくろ切除手術は2回目だった。 日々、さまざまな治療のために多額の費用が かかる。ボグダンには長期間のリハビリが必 要だが、コロナウイルス感染拡大の影響で、 2020年12月現在通院できていない。現在は3年 生で、自宅学習をしている。コンピューター ゲームとアニメを見るのが好き。母親(1981 年生まれ) は子どもの介護手当を受けている。 父親(1981年生まれ)は鉄道会社に勤務。両親 は息子のリハビリのためにさまざまな工夫を 重ねて努力をしている。



K・サビーナ (1999年生まれ) ウクライナ スラヴチチ市

脊髄と背骨の形成障害。二分脊椎症(脊髄 髄膜瘤)。右大腿骨関節の脱臼。右足の変形。 足の手術を繰り返している。店員の仕事を している母親と二人暮らし。

「日本のチェルノブイリ子ども基金のみなさん!私が病気と戦うのを助けてくださっているすべての思いやりのある人々に、私と母は心から感謝したいと思います。みなさんは私の命を支えてくれています!私たちのことを忘れず、置き去りにすることなく支援を続けてくださることに感謝します。神がみなさんに健康、幸福、光、喜び、平和、そして幸運を与えてくださいますように!

私は生まれてすぐに骨髄ヘルニアの手術を 受けました。二分脊椎症(脊髄髄膜瘤)という 病気は、骨格の発達だけでなく、内臓にも影響 を与えています。この困難な病気に対処する ことを学びながら、私は毎日懸命に戦ってい ます。

現在私は足の傷に苦しんでいます。医師は、足の骨格の変形と、適合しない靴を履いていたことが原因だと言います。傷は治りません。足の血行不良も傷の治りが悪い原因だと言います。治療のための包帯、絆創膏、消毒剤に多くのお金がかかります。最近、伸縮性の包帯を見つけましたがそれほど安価ではありません。1つの包帯は175グリブナ(約650円)で、2日ごとに交換する必要があります。ビタミンD欠乏症のため注射を打ち、薬も服用しました。

新年を前に(2020年12月21日)私は新型 コロナウイルスに感染し、非常に深刻な状況 でした。腎臓と傷に影響を与えたので、抗生物質を服用しなければなりませんでした。 また多くのお金が泌尿器用のパッド、慢性膀胱炎の薬、プロバイオティクスの購入に費やされています。

みなさんが私たちの問題に心を寄せ、ご支援くださることに改めて感謝申し上げます。 そのことがどれほど私や、他の困難な状況にある人々に生きる自信を与えてくれているかを言葉で表すことはできません!」



Y・ヴィクトル (1995年生まれ)Y・アリーナ (1993年生まれ)ウクライナ ジトーミル州ナロジチ地区

きょうだいは幼少時から障がい者に認定 されている。常に必要な薬と紙おむつを自 費で購入している。それぞれの障がい者年 金と、畑仕事などによる自給自足により暮 らしている。

「援助が必要な子どもたちにあたたかい手 を差し伸べてくださりありがとうございます。 善行は見過ごされることはなく、助けが待たれるところを灯台の光のように照らします。 私たちのような人間をほとんど気にかけていない、自分の国を恥じています。息子ヴィクトルは先天性大脳発達障害です。私たちは中、私たちはみなさんのご健康をが大好きです。私たちはみなさんのご健康を祈り蝋燭に火を灯しました。みなさんのような人がいるのはとても良いことです。私は14年前にがんの手術を受け、障がい者に認定されています。長女アリーナはもう28歳です。れています。長女アリーナはもう28歳です。れています。私たち家族の悲しみはもう十分過ぎるほどですが、なんとか暮らしています。

私たち家族へのご理解とご支援に深くお礼を申し上げます。みなさんに神のご加護がありますようお祈りします。

ヴィクトルとアリーナの母親より」



左:姉アリーナ 右:弟ヴィクトル

P・ウラディスラフ (1995年生まれ) ウクライナ ジトーミル州オヴルチ市

2015年10月号ニュースで支援を呼び掛けた ウラディスラフから新年の挨拶が届きました。 1998年にチェルノブイリ事故による障がい者 と認定され、慢性腎機能不全のため血液透析 を受け、2016年に子ども基金の支援により腎 臓移植手術を受けました。手術後も生涯、定 期検査と薬の服用が必要です。

「チェルノブイリ子ども基金と支援者の皆さんに、新年のお祝いを申し上げます。皆さんのお幸せとご発展、そしてなによりもご健康をお祈りいたします。新しい年に大きな夢が叶いますように。私と家族は、皆さんのご支援に、心より感謝しています。国の新型コロナウイルス防疫措置のため、僕はずっと家で過ごしています。薬を飲んでいて、体調は安定しています。方ちらでは冬は少しずつ遠ざかり、暖かくなってきています。

2021年1月20日 」





<<里親への手紙>>

親愛なるYさん、ご家族のみなさん、こんにちは!お元気ですか?

僕たちの家族、ママ、パパ、妹、弟も変わりなく過ごしています。うちの猫も元気です。あなたのご家族もお変わりありませんか?犬たちや猫たちも元気でしょうか。僕はもう6年生で、今年、美術学校を卒業します。試験を受け、卒業制作を作成することになります。みなさんに新年のお祝いを申し上げます!ご健康と平穏を、そして最良の新年となりますことをお祈りしています!

ご支援に心から感謝申し上げます。

あなたからのお手紙を心待ちにしてい ます!

> ベラルーシ ゴメリ市 マトヴェイ

※写真上:子ども基金の支援によるクリスマス プレゼントを受け取ったマトヴェイと妹、弟。

★「里親制度」にご関心をおもちの方は事務局へ ご連絡ください。詳しい資料をお送りします。

「チェルノブイリ子ども基金奥羽」活動の終了について

このほど「チェルノブイリ子ども基金 奥羽」 から活動終了のご連絡がありました。チェルノブ イリの子どもたちを共に長い間支えてくださった みなさまの活動が終わってしまうことは大変残念 ですが、これまでのご支援に深くお礼を申し上げ ます。

「子ども基金奥羽」は95年、98年、2000年のそれぞれの夏に、甲状腺がんの手術を受けたウクライナとベラルーシの子どもと引率者を保養に招きました。そこでの多くのあたたかい人々との交流は、今では大人になった彼女たちにとって、長い年月を経ても忘れることのできない思い出となっています。

また、「子ども基金 奥羽」のみなさまには、里 親としてベラルーシ 4 人の子どもをご支援いただ きました。困難な時期に支えてくださったことに 対し、家族たちは大変感謝をしています。

昨年末、活動を終了するにあたりチェルノブイ リ子ども基金へ多額のご寄付をいただきました。 子どもたちの救援のために大切に使わせていただ きます。

長い間のご支援をほんとうにありがとうございました。

チェルノブイリ子ども基金 事務局









「チェルノブイリ子ども基金奥羽」より里親支援を受けた 子どもたち

「チェルノブイリ子ども基金 奥羽」の活動を2020年で終えることにしました。残念ですが、メンバーの高齢化等によることが要因です。これまでの子ども基金事務局の方々のお支えに感謝いたします。会としての里親等の支援はできなくなりますが、チェルノブイリ原発の事故の現状等については、これからも周囲に情報を伝えることはメンバー個々が発信したいと思います。これまでの子ども基金奥羽の取り組みを振り返ってみます。

「チェルノブイリ子ども基金 奥羽」の活動は、1995 年に支援活動が、日本キリスト教団奥中山教会の有志、地域の方々の参加で始められました。その当時奥中山教会に赴任された、三好鐡雄牧師の呼びかけによることが大きかったと思います。

子ども基金事務局より、チェルノブイリ原発事 故により被曝した子ども達を日本で保養させる取 り組みのお話しがありました。奥中山は、岩手の 県北地域で、自然豊かな高原地帯のため、被曝に 対する免疫力をつけるためにもとても環境が良い ということで、ベラルーシとウクライナから、子 ども達とご家族をお迎えすることにしましたが、 さて、滞在費をどうするかとなり、教会関係に呼 びかけ募金活動を始めました。地域からも募金が 寄せられました。奥中山では、1 ケ月のホームス テイ(各家庭一週間毎)を行いました。来奥した 時は不安そうな表情でしたが、滞在するうちに笑 顔が見られるようになり、安心しきったような様 子でした。地元の新聞やメディアも取り上げてく れて、チェルノブイリ原発の被害の状況が広く伝 わる結果となったことは言うまでもないことでし た。保養の他、日本で活動していたナターシャ・ グジーのコンサートの計画や、ベラルーシ・ウク ライナからの子どもたちと付き添いの方の交流を 受け入れ、岩手の民族芸能や両国の歌、踊り等を 披露しあいました。その後現在の里親としての支 援に残った予算を使わせていただきました。

これまでのお支えに心から感謝いたします。

久保 征紀

ベラルーシ 子ども健康回復センター「ナデジダ(希望)」の状況

ベラルーシのチェルノブイリ汚染地区の子どものための保養施設「ナデジダ(希望)」も、昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けました。2か月間施設が閉鎖され、6月中旬に再開されましたが、受け入れ人数を大幅に減らした上に、感染予防対策費用の負担がのしかかりました。2020年6月1日時点で、個人の防護用品、消毒剤やその他の物品(薬剤容器、非接触式赤外線体温計)の購入支出は12,350ドルであった、との連絡が届いていました。7月、8月に、同施設で子ども基金の保養プロジェクトが行われました。例年であれば夏の間に開催されるか海外NGO主催の保養プロジェクトは、予定の半分しか行われませんでした。昨年末、子ども基金がナデジダへの緊急支援決定の連絡をした後、マクシンスキー所長から届いた手紙を紹介します。

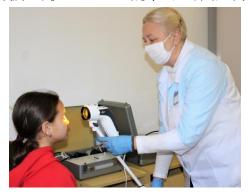
1年前の私たちは誰も、地球上の一般的な生活がどのように変化するか想像できなかったと思います。さらに、私たちが通常の生活様式に戻ることができるという保証も、誰も与えることはできません。

ベラルーシでは、新型コロナウイルス感染拡大に加え、2 つめの大きな問題は、みなさんもご存知のように、2020 年 8 月 9 日にベラルーシ共和国大統領が選出された後の非常に困難な社会政治的状況です。これらすべてはナデジダの活動に影響を及ぼしています。これまで私がナデジダの所長

として働いてきた中で、2020 年は最も予測不可能 な厳しい年となりました。

新型コロナウイルス感染は、センターの職員にも及びました。5月から現在までに確認された感染者は、現在の15人を含む29人です。残念ながら、1人の職員が亡くなりました。ミニバスの運転手として働いていたワシーリーさんで、彼は57歳でした。

センターで保養をしている子どもたち、親子た ちについては、幸いなことに、全体としてすべて が順調です。センターの職員たちの非常に高い責



保養中にさまざまな医療サービスを受ける子どもたち。医療従事者を含む職員たちはみなマスクを着用して 子どもたちに接している。

任感のおかげで、あらゆる面で私たちが計画したすべての予防措置が確実に実施されています。

以前お知らせしたように、6月時点ですでに全体的な財政および経済状況は非常に困難でした。 さらに、12月には受入の定員が320人のところ、 実際に滞在した子どもは151人、わずか47%の子どもしかセンターに来なかったため、さらに財政を圧迫しました。

この状況での主な問題は、従業員の雇用を維持 し、賃金を支払うこと、および食品、医薬品、学 用品、クラブ活動用の物資、電気代などの支払い 資金を確保することです。

従業員を解雇することなく、さまざまなコスト削減策を実施しながら、多方面から活動を確保するための方法を探すことに努めました。2020年はドイツのパートナーが新型コロナウイルス対策費用として、26,000ユーロを寄付してくれたことに大変助けられました。

厳しい状況ですが、私たちのこれまでの経験を 踏まえ、パートナーや友人の協力を得て、乗り越 えていけると確信しています。

このような状況の中、チェルノブイリ子ども基金から「ナデジダ」への緊急支援のご連絡は、私たちにとって非常に嬉しい驚きであり、大きな贈り物でした。

ベラルーシの子どもたちのために、子ども健康回復センター「ナデジダ」を長期的に支援してくださっているチェルノブイリ子ども基金とすべての支援者の皆様に、深い感謝の意を表します。このようなご支援は今日の私たちにとって大変重要なものです。

2020年12月9日 子ども健康回復センター「ナデジダ」 所長 V・マクシンスキー 心からのご挨拶とご健康への願いを込めて





左:絵画教室に参加した子ども。ほかにも手芸、陶芸、木工細工、音楽などのクラブ活動が行われている。

右:敷地内でクロスカントリースキーを楽しむ子どもたち。体育館でも種々のスポーツ活動や催し物が行われている。

黒 部 ドクターのお話

新型コロナウイルス感染症の日本の奇跡

世界では、中国で始まった新型コロナが、すぐヨーロッパに飛び火し、急速に広がったのに、なぜか隣国の日本や韓国、台湾、マレーシアでは広がらないことが奇跡と言われた。特に日本は特別なことをせず、ロックダウン(都市封鎖)も中途半端であり、国民に自粛を要請する形に近いものであった。また今回の非常事態宣言も飲食店への規制だけで、これも中途半端でしかない。それでも、他の国に比べたら感染者は少ない。日本で感染者数が少ない理由はなぜか。

ピーター・テミンはその「中間層はなぜ没落し たか」で、マンチェスター大ルイス教授によると、 発展途上国はいわゆる二重経済をもち、それを 「資本主義」部門と、「生存」部門と名付けた。 資本主義部門は、資本と労働の両方を利用した近 代的生産の拠点で、その発展は資本の量によった。 生存部門は貧しい農民からなり、その人口は土地 や自然資源の量に比べてあまりにも大きい為、最 貧の農民一人当たりの生産性はゼロに近かった。 ルイスが考えたのはアジア、アフリカ、中南米の 国々で最大の国は中国であった。多数の農民が小 規模農業に従事し、生存部門を構成していた。ほ とんどの発展途上国はそうした二重経済であっ たが、日本、韓国、マレーシアは 1960・70 年代 に急成長を遂げ、人口のほぼ全体が資本主義部門 へ組み込まれた「成長の奇跡」として知られてい るという。この国々がコロナの少ない国である。

「人新世の資本論」の著者斉藤幸平は、日本人の大多数は世界の裕福な上位 10%に入るという。世界銀行は一日一人 1.9 ドル(約 200 円)以下で生活している人を貧困と定義していて、世界の人口 77 億人の約一割の 7 億 3 千万人が絶対的貧困層である。

日本では年収 200 万円以下の貧困層は、2018 年では約 1100 万人で、人口の約 8.5%である。 失業率は 2019 年 2.3%。これがコロナ直前の状 況であった。貧富の格差指数も、失業率も、世界の中で北欧並みの数字である。また日本では内戦や政治的紛争が起きていないし、難民も受け入れていない。それがコロナウイルスに感染しても発病しない状況を作っている。

国際医療福祉大の高橋泰教授に言わせれば、日本人はまだ自然免疫の段階でコロナウイルスを防御している。だから抗体検査をしても、欧米に比べて二桁低い数字しか出ていないという。抗体は、ウイルスが血液中に侵入し、獲得免疫まで発揮されないとできない。自然免疫の段階つまり、侵入する気道の粘膜細胞での細胞性免疫で闘って勝利していれば、抗体はできない。

イギリスの格差研究の第一人者、ウィルキンソンとピケットがその著『格差は心を壊す 比較という呪縛』で「格差の小さな国はうまくいっている」と述べている。アメリカは「世界で最も経済格差の大きな国」、日本は「所得の不平等が最も小さな国」とし、日本が健康や社会問題の指標(平均寿命、乳幼児死亡率、薬物・アルコール依存症、殺人犯罪率、未成年出産など)において世界で一番よいという。これが日本人の多くの人が自然免疫を発揮できている要因ではないかと私は考える。

これだけコロナが騒がれていても、昨年12月の抗体検査では、抗体保有率が東京で0.9%(6月は0.1%)しかなかった。昨年5月スウェーデンのストックホルムで25%、ロンドンで17%、ニューヨークで12%、モスクワで10%、オランダで3%、ドイツのガンゲルトで15%という抗体保有率であることと比べて極端に低い。ここから考えても、自然免疫段階で対処している人が多いと考えられる。これが日本の奇跡であった。

そのため有効性と安全性に問題のあるワクチンは、日本では接種を急ぐ必要性はないと思う。 コロナワクチンの有効性は、インフルエンザワク チンと同じ程度のものと考えて良い。

黒部 信一 すずしろ診療所所長 小児科医師 ブログ https://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941

チェルノブイリの歌声 ~みなさまからのメッセ-



- ◆ (カレンダーを)毎年お世話になった方々にお 分けして喜ばれております。子どもたちが丈夫に 元気に育つことをお祈りしています。(千葉県 Y さん)
- ◆カレンダーを毎年楽しみにしています。子ども たちが苦しい思いをすることなどないことを願っ て。(神奈川県 K さん)
- ◆2021 年のカレンダーも素敵です。子どもたちは 可愛いですが、写真の下の添え書きを読むと悲し くなります。このカレンダーは原発の再稼働に反 対している仲間にクリスマスプレゼントで渡して います。(神奈川県 Eさん)
- ◆2021 年チェルノブイリカレンダーを申し込みま す。昨年は私の体調悪く申し込めず、いつもの壁 が寂しいままでした。いつも楽しみにしています。 (東京都 Y さん)
- ◆早速にカレンダーが届きました。子どもたちの 笑顔はいつもいいものですね。子ども基金のカレ ンダーでやっと新年がスタートしたようです。あ りがとうございました。コロナ感染が収まらない 中、子どもたちにとって保養やさまざまな支援は 一層大事な存在になりますね。陰ながら応援して います。基金ニュースは紙媒体の方が読みやすい のでいつも送ってもらっていましたが、今年はホ ームページ上で読んでみようと思います。郵送不 要ということでよろしくお願いします。(兵庫県 Hさん)
- ◆ (カレンダーの)子どもたちの笑顔は素晴らし いです。私の方が励まされる思いです。(神奈川 県 Tさん)
- ◆ベラルーシでの政情不安、ロシアによるウクラ イナ東部の併合、ナゴルノ・カラバフでの武力衝 突、トルコが次々と近隣諸国・地域へ介入してい る現状に危機を覚えます。チェルノブイリの子ど もたちの安全と安心を願うばかりです。(東京都 Fさん)

- ◆ニュースレターありがとうございます。

 コロナ 禍の動きにくい中で編集されましたことに敬意を 表します。チェルノブイリの子どもたちはコロナ の影響をより敏感に受けていることを改めて知ら されました。私たちは自分や周りのことだけであ たふたしていることが情けないです。(三重県 Mさん)
- ◆「チェルノブイリの子どもたち」、楽しく読ま せて頂きました。ウクライナとベラルーシでの保 養に加えて甲状腺手術を受けた親と子どもの保養 も行っているのですね。参加した方たちの声を嬉 しく拝読しました。やはり夏は海や湖が人気です ね。食事も充実、さまざまな催しの様子がよくわ かりました。(静岡県 Sさん)
- ◆10 月ニュースレターのベラルーシとウクライナ の保養の様子は、子どもたちの喜びや、はしゃぎ 様が紙面から伝わってくるようで、目を細めて読 ませて頂きました。スタッフの方々、日本と現地 で頑張ってコロナと混乱を乗り越えて頂き感謝感 激です。地球の遠いところで笑ってくれる子ども たちがいる…。日本の片田舎でやはりコロナ禍に おびえていても、つながっていると励みになりま した。又、継続してみなさんと子どもたちの笑顔 が見られますように。(宮崎県 Kさん)
- ◆10 月号の詳しいニュースをありがとうございま した。世界中がたいへんな状況の中、明るいニュ ースでした。子ども達が健康になることを願って おります。(愛知県 Uさん)
- ◆ニュースレターを読み、とても元気に過ごして いる子ども、病気で元気のない子ども、未だに変 わらない状況に悲しみ、怒り等々いろいろな思い にかられます。友人が基金の活動に賛同してく れたので、カレンダーを2部送付して下さい。 根気強いこのプロジェクトにいつも感心してお ります。どうぞこれからも頑張ってください。 応援しています。 (埼玉県 T さん)

2020年度決算報告書

【2020年1月1日~12月31日】

項目	金額
	立
前期繰越	19,011,732
募金	
救援一般	11,478,598
保養費*1	1,620,951
里子支援*2	4,409,120

2000	
-	
救援キャンペーン	
2020年4月イベント会場費返金*3	62,300
2020年4月1、シド去場員返並*3	02,300

購読料•運営費	480,710
預貯金利息	231

14-05-	
物販売上	70.000
本・ポストカード・CD・民芸品	73,380
カレンダー2020	258,250
カレンダー2021	1,379,500
小 計	38,774,772

支出	
項目	金額
n. 1	
救援	
医薬品・物品	3,763,600
保養費	4,837,400
団体運営費*4	1,217,096
型	3,590,396
緊急支援*5	541,362
杀心又扳 [♠] 3	341,302
派遣費	0
送金·為替手数料	93,519
未来の福島こども基金	162,000
N I To a constant of the const	,
救援キャンペーン	
2020年4月イベント*6	92,110
事務運営費	
国際 Tel•Fax	0
国内 Tel•Fax	103,729
印刷・コピー費	24,050
ニュースほか発送費	328,154
人件費	1,845,857
交通費	106,008
事務消耗品費	166,947
事務所費	1,017,146
広告·宣伝費	0
資料•会議費	13,380
国内振込手数料	28,570
物販仕入	0.500
本・ポストカード・CD・民芸品	9,503
カレンダ <i>ー</i> 2020 カレンダ <i>ー</i> 2021	700 688,596
カレンダー2021 小 計	18,630,123
次期繰越金	20,144,649
合 計	38,774,772

- *1 旧振込用紙項目「特別保養費」→「保養費」としました。
- *2 里子支援53人(経費1割、2021年1~6月支援分も含む)
- *3 イベント開催のために支払った会場費用が返金されました。
- *4 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。
- *5 緊急支援11人
- *6 イベント開催のための会場費、宣伝費(チラシ制作料、発送料)。会場費は5月1日に返金されました(*3)
 - * 切手6,250円相当も寄贈されています。
 - * カレンダーの収入・支出とも次年度にまたがります。2020年度のカレンダー収益は57万円でした。
 - * 次期繰越金が多いのは、2020年後半に多額の募金をいただいたためです。

2020年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2021年1月31日

会計監査

監事 鈴木 由利子 監事 清水 玲子

●募金状況	2020年10月~2021年1月 (単位:円)			
	10月	11月	12月	2021年1月
募金件数	159	100	312	81
救援寄付金	681, 468	494, 748	2, 263, 039	185, 400
保養費	74, 600	177, 400	745, 206	96, 100
里子支援	125, 320	53, 860	854, 910	427, 270
ニュース購読費	32, 000	88, 000	74, 000	26, 000
合 計	913, 388	814, 008	3, 937, 155	734, 770

* その他、切手、文房具のご寄付をいただきました。

●救援状況	2020年10月~2021年1月	(単位:円)

十12 . 1 1/
187, 920
93, 960
281, 880
2, 610
2, 088, 000
1, 418, 040
252, 096
1, 575, 600
630, 240
100, 000
1, 050, 400

★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙 によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都 合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、 お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

- (1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金
- (2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキュウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキキン

(3)三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号: 普通 1688367 口座名: チェルノブイリ子ども基金

♥ 団体名一覧 ♥

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させて いただいております。ご寄付をいた だいたみなさまに心よりお礼を申し 上げます。

【10月】滋賀県教職員組合

【11月】実教出版労働組合 NNJ、力 トリック徳田教会、稔台教会、日本 ウクライナ文化交流協会、日本キリ スト教会横浜桐畑教会、川崎市職員 労働組合、イエスキリスト教祈りの 家

【12月】リサイクルグループ カリ ーナ、川和保育園、広島女学院中学 高等学校、恵泉女学園中学・高等学 校 宗教部、チェルノブイリ子ども 基金奥羽、㈱アウレオ、ストッププ ルトニウム神奈川連合会、フォーク ダンスを楽しむ会、松山古町教会 C. S.

【2021年1月】日本基督教団田名 部教会、友愛冨士見保育園、イエス キリスト教祈りの家、日本キリスト 教会 大阪北教会婦人会、ふぇみん 婦人民主クラブ

※子ども基金が現金で支援したもの につきましては、現地団体・病院が 物品等を購入後、領収書を提出して もらいます。子ども基金は、書類上 のチェックをするとともに、事務局 スタッフが現地を訪問する際に確認 を行っています。

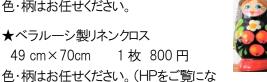
★2021 年 チェルノブイリ救援カレンダー

新聞各紙にも紹介され、おかげさま で多くのみなさまにお買い求めいた だきました。在庫はあと僅かです。 収益は次号ニュースレターでご報告 します。

事務局から

■販売品のご案内

- ★マト/ヨーシカのマグネット 縦6cmx横幅4cm 1個 500円
- ★マトヨーシカのキーホルダー 縦4cmx横幅2.5cm 1個 500円 色・柄はお任せください。



- れる方は番号をご指定下さい。) ●ご注文方法:(1)住所(2)氏名(3)電話番号(4) 希望品名と数量を明記の上、メール・FAX などでお申 し込みください。●送料別(実費)
- ●お支払い方法:振込用紙を同封しますので、品物が届きましたらお振込みください。

■「基金ニュースレター」について

寄付をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。また、ニュース購読費(2,000 円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2·6·10月):お手伝いいただける方を募集します。次回は、6月中旬の予定です。感染対策のため日程・定員が流動的ですので、関心のある方は事務局へお問い合わせ下さい。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10 階)

※ボランティア参加ご希望の方は、前日までにメール かお電話でご連絡ください。電話は平日午前 10 時~ 午後 5 時。留守の場合は伝言をお願いします。





** **ご協力いただいているみなさまへ** ** 振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

<u>払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で</u> ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費·寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

★編集後記★

チェルノブイリ被災地でも新型コロナウイルスの影響が続いています。本号に掲載の子どものほかにも、コロナウイルスに感染したり、定期検査やリハビリに通院できないという報告が届いています。このような状況が続いていることに現地の団体、親たちは大きな不安を感じています。病気の子どもたちの治療や保養を安心して行うことができるよう、日本でも世界でも、少しでも早くこの状況が収束することを祈ります。(事務局)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行● 住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp ◇ウェブサイト http://ccfj.la.coocan.jp/

◇事務局ブログ http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。